

平成28年度第5回登別市教育委員会会議録

日 時 平成28年8月25日（木）午後5時00分

場 所 登別市民会館 2階 小会議室

第5回 教育委員会議事日程

- 1 日 時 平成28年8月25日(木) 午後5時00分
- 2 場 所 登別市民会館 2階 小会議室
- 3 議 案 報告第3号 教育委員会事務局職員の人事異動発令に係る臨時代理の報告について
報告第4号 教職員の懲戒処分内申の結果について
報告第5号 教職員の懲戒処分内申の結果について
議案第10号 平成28年度全国学力・学習状況調査 北海道版結果報告書への市町村別結果の掲載について
- 4 情報提供 1. ALT新規招致者について
2. 子どもの本のつどい登別大会の報告について
3. 総務・教育委員会帯同報告「小中一貫教育」について
4. 人形浄瑠璃「文楽」の公演について
- 5 その他 「登別に鉄道が走った」の視察(郷土資料館)

出席者

(教育委員5名)

委員長	垣 内	登紀子
委員	森 口	達
委員	赤 井	秀 輝
委員	堅 田	裕
委員	武 田	博 (教育長)

(事務局8名)

教育部参与	野 崎	均
教育部次長	橋 場	太
総務グループ建築主幹	出 口	利 美
学校教育グループ総括主幹	田 中	道 郎
学校教育グループ学務主幹	櫻 井	貴 志
社会教育グループ総括主幹	安 部	直 也
図書館長	綿 貫	亨
給食センター長	小 森	仁

- 垣内委員長** それでは、本日の委員の出席は5名でございますので、委員会は有効に成立していることをご報告します。これより、平成28年度第5回教育委員会を開催いたします。本日の議事は、報告3件、議案1件になります。議事に入る前に新規ALTのトーマスさんをご紹介します。よろしくお願いいたします。
- 田中学校教育グループ総括主幹** 情報提供の1番目の紹介になりますが、先月マークの後任としてトーマスが新任で着任すると説明しました。1か月くらいになりますが段々慣れて凄く気に入っているというようなことを聞きました。自己紹介をさせます。
- トーマス** 皆さんこんにちは、私はトーマスと申します。テキサス州のオースティンから来ました。テキサスで2年間教えた経験があります。よろしくお願いいたします。
- 垣内委員長** 日本語が大変お上手ですね。どうぞよろしくお願いいたします。
(トーマス退席)
- 垣内委員長** それでは、報告第3号「教育委員会事務局職員の人事異動発令に係る臨時代理の報告について」事務局から説明をお願いします。
- 橋場教育部次長** それでは議案書1ページをご覧ください。報告第3号「登別市教育委員会事務局職員の人事異動発令に係る臨時代理の報告」になります。内容は平成28年8月1日付けの事務局職員の人事異動になりますが、この4月に図書館管理担当主査から障害福祉グループ総括主幹に昇任となりました太田裕之が体調を崩し、図書館管理担当主査に戻ることになりました。それに伴い、4月から配置しておりました今城主査が、市長部局の総務部人事・行政管理グループの行政管理担当主査に異動となりました。これらの異動について、太田主査については任用、今城主査については出向の発令を「登別市教育委員会教育長に対する事務委任規則第3条」の規定に基づき、2ページのとおり臨時代理を行いましたので、その内容を報告し、承認を求めるものであります。以上でございます。
- 垣内委員長** ただ今説明がありました報告第3号について、ご質疑ございませんか。この件については8月1日付けで発令になっていきますのでよろしいでしょうか。
(「はい」の声あり。)
- 垣内委員長** それでは、報告第3号については、承認させていただきます。次に報告第4号と第5号「教職員の懲戒処分内申の結果について」を議題とします。本報告につきましては教職員の人事に関する案件であることから地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項のただし下記により公開しないこととしてよろしいでしょうか。
(「はい」の声あり。)
- 垣内委員長** それでは報告第4号・第5号につきましては公開しないこととします。
(非公開)
- 垣内委員長** それでは、報告第4・5号については、終了させていただきます。
それでは、これより通常通り公開にて進行することとしてよろしいでしょうか。
(「はい」の声あり)
- 垣内委員長** それでは、公開にて議事を進めたいと思います。次に議案第10号「平成28年度全国学力・学習状況調査北海道版結果報告書への市町村別結果の掲

載について」を議題とします。事務局から説明をお願いします。

○櫻井学校教育グループ学務主幹 議案書の8ページをご覧ください。議案第10号につきましては、平成28年度の全国学力・学習状況調査北海道版結果報告書への市町村別結果の掲載についてであります。この調査結果の公表につきまして、平成26年度に国から示されている実施要綱では、教育委員会や学校が保護者や地域住民に対しての説明責任が明記され、それに基づいて道教委では市町村教育委員会の同意を得た場合には、市町村別の結果を公表することとしまして、昨年は135市町村、因みに最初の平成26年度は86市町村だったのですが、これらの調査結果及び分析結果、改善方策を報告書に掲載いたしました。本市においても委員の皆様のご意見を伺い掲載いたしました。今年度につきましても道教委から、北海道版結果報告書への市町村別結果の掲載について回答を求められましたので、教育委員の皆様のご意見を伺いたいと思います。我々事務局としましては、昨年度までも公表しているということ。それから公表方法が改善方策について合わせて公表しようとしていること。3つ目に31ページの資料をご覧いただきたいのですが、公表内容が教科全体の平均正答率ではなくて学習の領域別、例えば国語であれば読むことと話すこと、書くこと、聞くことの領域別になっておりますので、市町村の特色をレーダーチャートで示すようにしていること。これらの理由から、今後の本市における学力向上対策の参考になると考えられますので、道教委が作成する結果報告書に掲載することに同意したいと考えております。委員の皆様のご意見を伺います。

○垣内委員長 それでは公表に同意するかということについて、皆様のご意見を伺いたいということですので、それぞれに意見を述べた方がいいのでしょうか。それとも5名で公表に賛成かどうかということでもよろしいですか。

○櫻井主幹 5名全員での意見で結構です。

○森口委員 そういうことであれば私も賛成します。

○垣内委員長 そういうことで、教育委員全員で賛成させていただきますのでよろしく願いいたします。

○櫻井学務主幹 ありがとうございます。

○垣内委員長 それではただ今のご説明に関して何かありましたらご質問をお願いします。

○堅田委員 公表することで現場の先生方と保護者の方で意見というのは結構あるのでしょうか。

○櫻井学務主幹 公表の仕方が先ほど申しましたように領域別になっておりますので、教育現場の方から、特に登別市の場合は不満といったことは我々の耳には届いておりません。ただ保護者の方につきましては、ある保護者にとっては全て数字まで出して欲しいというようなご意見もありますし、又そこまで公表する必要がないのではないのかというご意見もいただいております。ただ国の方としては、点数を公表するということは、過度な競争を生むのではないかということ、点数を取るための指導になってしまう恐れがあるということから、やはり都道府県別であるとか、市町村別の公表に留めるようにということと考えておりますので、我々市教委としても国の方針に則って公表を考えていきたいと思っております。

○垣内委員長 その他ご質問ありませんでしょうか。

(「ありません」との声あり)

○垣内委員長 それでは議案第10号は承認することとします。以上で本日の案件は終了になりますが、その他事務局から情報提供などありましたらお願いいたします。

【情報提供】

○綿貫図書館長 図書館から情報提供が1件ございます。お手元にチラシをお配りしております。第39回北海道子どもの本のつどい登別大会が7月30・31日の両日市民会館を会場に開催されました。図書館ではこの事業に協力しましたので報告いたします。チラシ以外にお配りするものがなかったので、このチラシだけになってしまうのですが、この大会は「すべての子どもたちに本を楽しさを」をテーマに、道内の本の書き手、読み手、送り手の3者が集い、交流し合い、学びあうことを目的とした大会であります。胆振で開催されるのは26年ぶりでありまして、登別大会では「ことばの種を蒔きながら」をテーマに、絵本作家の基調講演と2日目には6つの分科会に分かれて開催されました。第1分科会で、学校図書館と公共図書館・登別の現場からと題して学校司書の原さんが学校司書の仕事について報告しました。さらに中学校の図書ボランティアの報告がありまして、公共図書館として私の方から登別の取組などについて講演を行ないました。全体の参加者は百数十名の参加がありまして、大会の主催者であります北海道子どもの本の連絡会の方々からは、登別の熱意を感じましたという感想をいただきました。また、大会に関しましては昨年の後半から毎月市民による実行委員会を開催してきたものでありますけれども、とても良かったという参加者からの声が多く寄せられまして、実行委員会としても大変ほっとしているところであります。以上です。

○垣内委員長 その他情報提供ありますでしょうか。

○野崎教育部参与 登別市議会の総務・教育委員会の行政視察に帯同してきまして、その報告を簡単にさせていただきます。お手元の資料、何枚か閉じてあるものをご覧になっていただければと思います。視察先は徳島県でした。日程は7月11日から4日間、村井委員長、工藤副委員長、佐々木委員、戸井委員の4名と一緒に行ってきました。徳島県は、平成25年度から文部科学省の小中一貫教育における多様な教育システムの調査研究事業を受託しておりまして取組を進めております。資料の上の辺りに徳島モデルの構想というようなことで、徳島県というのは2つのパターンで小中一貫教育に取組んでいるということでございました。一つ目は分散型小中一貫教育、チェーンスクールという呼び方で徳島県では呼んでいました。地理的に分散した小中学校が人的、物的に連携していくという形です。二つ目は一体型小中一貫教育、パッケージスクールと呼んでいます。同一地域で学校や保育所との交流や連携を行なっていく、資料の真ん中から下辺りですけども阿南市立椿町中学校区の視察と裏面になりますけども、牟岐町市宇賀ヶ丘学園というところの取組を見てまいりました。最初にも書いてありますけども、実は小中一貫教育に取組む一番の取組としまして徳島県で考えているのは、人口減少対策というところで、学校が小規模になっていく、それを維持して行く一つ的手段として小中一貫教育に取組ん

でいます。そこが一番大きなところでして、例えば椿町中学校区では2つの小学校と1つの中学校になりますが、椿小学校というのは総勢児童が19名でございます。もう一つの椿泊小学校は9名で、椿町中学校は20名で規模的にはかなり小さい規模です。統合ということも考えたときもあつたらしいのですが、実は椿泊小学校へ行く道は、軽自動車ギリギリ通れるような道で、すれ違うこともできないような、簡単にスクールバスを通すとか、そういうことが地理的に無理な状況にある中で、どういう教育ができるのかというところでの取組の例が、ここに紹介しているものです。ここでは実際に子どもたちを集めて共同で色々な行事等をこなしていくということと、テレビ会議システムを導入しまして、3校のそれぞれの子どもたちが一つの画面の中で、殆どタイムラグのない状態で会議をしたり、交流をしたりすることができる、それを授業の中で生かしたり、先生方の中でも打ち合わせで活用しながら時間を生み出して効率よく行なっていくという取組がなされていきました。裏面の市宇ヶ丘学園というところですが、ここは保育園と牟岐小学校と牟岐中学校が一つのところに固まってあるという場所でした。牟岐小学校と牟岐中学校は渡り廊下でつながれていまして、中学校の特別教室、理科室とか技術・家庭科室とかそういうところは小学生も行き来して共有して使うというような形で取組んでいくと、体育館も共有して取組んでいくというふうな取組をしていると。パッケージスクールという実践でした。地域の方々とも色々な形でつながりながら教育を展開していくということでもございました。全体を通しまして、地域における学校の存在意義を教育の機会均等や地域コミュニティの維持に起きまして、子どもの数が減少し小規模化する学校を低コストで継続させ、かつ、教育の質を保証するという、一つの課題を解決する手段だなぁと徳島モデルを捉えて来ました。徳島県にとってはこういう取組は必然的な状況にあるんだということが改めて分かりました。また、学校支援地域本部から学校地域協働本部へと国の流れも変わっていく状況にありますけども、本市としましても幼保小中一貫とコミュニティスクールの取組の連動というところを具体的にしていって教えを示していただいたなあと感じて勉強してまいりました。以上でございます。

○垣内委員長　その他情報提供ございませんでしょうか。

○安部社会教育グループ総括主幹　社会教育グループからは人形浄瑠璃「文楽」の公演について情報提供いたします。資料は本日お配りしましたチラシになります。既にご案内をしておりますが、10月16日の日曜日に市民会館大ホールにおきまして人形浄瑠璃「文楽」の公演を行ないます。この事業は西胆振定住自立圏の3市3町で実施しております文化芸術鑑賞事業で、今年度登別市が主管として実施するものでございます。文楽は日本の重要無形文化財で、ユネスコ無形文化遺産にも登録されておりまして、当日の出演者には人間国宝の方もいるというふうに聞いております。なかなか見る機会のない伝統芸能ですが、一般的な価格よりも低く設定しておりまして、多くの方に見ていただきたいと考えております。また、より一層文楽の魅力に触れることができるように、昼の部と夜の部の間に観覧者を対象に実演を交えた文楽入門も開催しますので、ご家族やお知り合いにもお勧めいただければというふうに考えてございます。合わせて情報提供させていただきます。

明日26日ですけども、文化庁で実施しております平成28年度文化芸術による

子どもの育成事業によりまして、市内小学校6年生を対象に能楽の公演を市民会館で行ないます。本公演を文化の裾野を広げる機会とするために、子どもに限らず保護者や一般の方につきましても無料で鑑賞していただくとしております。22日の月曜日に新聞報道でもございましたとおり、代表校として富岸小学校の6年生が能楽師の方から体験を交えた講義を受けております。このワークショップに参加していない学校につきましても、当日各校から代表児童1名が狂言師の方から指導を受けて舞台上で体験を行なうこととなっております。明日もお忙しいことと思いますが、お時間のある方はこちらの方も、是非ご覧になっていただければと思っております。以上でございます。

○**垣内委員長** その他情報提供ございますでしょうか。

○**橋場次長** 以上です。

○**垣内委員長** ただ今子どもの本のつどい登別大会、こちら26年ぶりという報告をいただきました。野崎教育部参与からは小中一貫教育の視察についてのご報告、また、安部総括主幹からは文楽の公演と狂言の公演についてのご案内をいただきました。西胆振定住自立圏の事業ということでございますので、広域で来場される方も多いのではないかと考えていますけれども、現時点でのチケットの状況はいかがですか。

○**安部総括主幹** 現時点での販売枚数は150枚程度となっております。あと2ヶ月ほどございますので、色々営業活動をしたいと思っています。

○**垣内委員長** 昼の部と夜の部は違いますので、両方ご覧になってチケット2枚をお求めになってということも可能でしょうね。その間の文楽入門というのはどちらについても、お昼の部でそこまでご覧になってもいいし、夜の部の方がそこから参加でもいいということですね。指定席ではないのですね、全て自由席ですね。

○**橋場次長** 文楽入門で座席番号が必要と書いていますので指定席だと思います。

○**垣内委員長** きっとお昼のところでこのことについては指示があるのでしょうか。是非皆さんもお時間を作ってとっております。今徳島県の小中一貫教育がありましたけれども、ややもするとこのように人口減で各学校の人数が少なくなると、スクールバスで統廃合ということが多く行なわれているようですが、又そこと違った連携のシステムというのは余り聞いたことがないような気がするのですが、参与からご覧になってどのように感じましたか。

○**野崎参与** やっぱ阿南市の方はそうするしか方法がない。そこで行き来してというところは日常的になれば難しさが合っただけの一つの方法だったのかなと思います。牟岐町の方は実は南海トラフとの関係で、津波の被害も想定した中で高台にある中学校のところへ小学校や保育所を移動させると、そのタイミングで9年間を見ていきたいと思いますという。大体規模でいうと登別地区と近いくらいで、スクールバスで子どもたちを集めているというような町。そこには必然性というものがあるんだなというところでした。

○**垣内委員長** その地域の置かれている状況、それから将来的なことも見据えてどのようなスタイルがいいのかということは、多様化して全てが統廃合で、それが悪いということではないのですが、色んな選択肢があるということを今回感じさせていただいたと思うのですが、赤井委員に置かれましては何か。

- 赤井委員** これを読ましてもらって、これからこういう形の小中一貫のものが、北海道は地理的に離れていたりしてるから、さらにインターネットというものを使った学習の仕方であり、先生方の研修も含めて、なるほどと見て感心しました。今後こういう形が増えてくるのではないかと感じました。特に、中一ギャップというところと小中一貫のときに、他のところを読んでいたらそういうところがクローズアップされていて、これはそういうことではなくて、ですから色んな形の小中一貫の形があるのかなと感じました。
- 野崎参与** この牟岐小学校と牟岐中学校には校長先生がそれぞれいらっしゃって、施設はつながっていますけども、議員の一人が義務教育学校への移行というのは考えないのですかというのを質問されていましたが、実際に小学校は小学校の校長先生が、中学校では中学校の校長先生が、きちんとそれぞれの中で運営していく中でのつながり方という方が、こことしては現状としては合っているのですというような話もされていて、そういう考え方なんだと認識しました。ただ徳島県のほかのところでは、義務教育学校という方向で手を挙げている地域も、これから考えていく地域もあるというお話で、地域の特性だったり流れだったり、そういうものを大切にしていかなければならないということが勉強になりました。
- 垣内委員長** 森口委員の方からは何かありますか。
- 森口委員** 7ページの車1台がぎりぎりのところですね。そうであればやむを得ないし、分散型というかそういうことも、ただ統合型というのが今多いですけども。そういうのもいいことだと感じました。
- 垣内委員長** 堅田委員の方からは何かありますか。
- 堅田委員** 牟岐町の規模は参与がいうように登別地区に似ているし、登別小学校のそばの幼保一元の施設もあるし、なんとなくイメージが湧きました。でもそれが全部に当てはまるわけではないしというところと確かにそうだし、あと、連携は幼稚園と保育所、小学校と中学校と出ていますけど、連携の仕方も地域とか、ニーズとかあると思うので、これが正解というのではないと思うので考えないといけないと思います。
- 垣内委員長** これからは地域とか、そこに住んでいらっしゃる皆様の思いとか、学校とどうつながっているのかという歴史なども踏まえながら多様化の時代になっているんだろうなと、1つか2つの選択肢ではなくて、本当にそこに則した住民・子どもさんたちが幸せと思えるようなスタイルを選択していく時代なんだと改めて感じさせていただきました。この件についてはよろしいでしょうか。
- 野崎参与** 今日丁度、このことを受けて総務・教育委員会の皆さんが登別市の現状はどうなんだろうねということ、校長先生方とお話をしたいということで、小中一貫教育に留まらず、本市で取組んでいるコミュニティスクールですとか、土曜授業ですとか、そういうことを含めて地域と共にある学校づくりという観点で1時間半くらいですか、交流をさせていただいているということも付け加えておきます。
- 垣内委員長** それでは情報提供についてはよろしいですね。
（「はい」の声あり）
- 垣内委員長** それでは無いようですので終了いたします。
最後に9月の教育委員会の開催日について予定したいと思いますが、次回の開催

日について、事務局の方で考えがあればお願いします。

○橋場教育部次長 9月の教育委員会につきましては、9月29日木曜日をお願いしたいと考えております。

○垣内委員長 それでは、9月29日木曜日で皆様のご都合は如何でしょうか。
（「大丈夫です。」の声あり）

○垣内委員長 それでは、9月の定例の教育委員会につきましては、9月29日木曜日16時30分から市民会館小会議室で開催するという事でよろしいでしょうか。
（「はい」の声あり）

○垣内委員長 では、決定とさせていただきます。詳細につきましては、後日事務局よりお知らせ頂きたいと思っております。以上で本日の会議を閉会いたします。お疲れ様でした。